

ドラマティック日本史 第4弾

「多くの社寺に現在も残る名工の技」

～左甚五郎～



講師：玉田 玉秀齋 先生

日時：3月16日（月）10：00～11：40

■左甚五郎

江戸時代初期に活躍したと伝えられる伝説的な彫刻名工である。しかし確実な史料は少なく、生没年や経歴ははっきりしていない。実在の職人がモデルになった可能性もあるが、日本各地の寺社全国に数十～100件以上の伝承「甚五郎作」と伝わる彫刻が残るが、一人で作ったとは考えにくい。甚五郎の名は寺社建築の装飾彫刻と結びつき、名工を象徴する存在として伝説化した人物と考えられている。

■日光東照宮と甚五郎

①眠り猫：奥宮参道入り口の門にある小さな猫の彫刻

猫の裏側には雀が彫られており、猫が眠っているため雀が安心して遊んでいる。

②想像の象：東照宮の神厩舎にある象の彫刻

象は東照宮造営（1636年）時点では珍しい動物だったため、絵をもとに想像して彫ったと言われる。下絵は江戸幕府御用絵師の狩野探幽によるものとする説もある。

③逆さ柱：陽明門の柱の一本だけ模様が逆になっている。

伝承では「建物は完成した瞬間から衰える」という考えから、わざと未完成の柱を残したという伝承があり、甚五郎の工夫と語られている。

■全国に残る甚五郎伝説

①忘れ傘：京都／知恩院

三門の軒裏に骨だけの傘が残されている。知恩院の七不思議の一つで、甚五郎が魔除けのために置いたという説や、工事の際に置き忘れたという説がある。

②閼伽井（あかい）屋の龍：滋賀／三井寺

閼伽井屋のかえるまたにある龍の彫刻。伝説では龍が夜に琵琶湖へ飛び出して暴れたため、甚五郎が龍の目に釘を打って鎮めたと言われる。

③つなぎの龍：埼玉／秩父神社

社殿彫刻の龍。池の龍が暴れたため、鎖でつないで封じたという伝説がある。

④水飲み龍：東京／寛永寺

鐘楼の龍の彫刻。夜になると不忍池に飛んで行き水を飲んだという伝説が残る。

⑤上野東照宮の龍：東京／上野東照宮

唐門の昇り龍・降り龍の彫刻が甚五郎作と伝えられている。

⑥龍澤寺の龍：静岡／龍澤寺

井と伊家の菩提寺。本堂入口の龍の彫刻が甚五郎作とする伝承がある。「左の甚五郎と云うものが左の手にて細工を上手にし・・・」という。

⑦稲喰神馬：岐阜／飛騨一宮水神社

神馬の木彫が夜に田へ行き、稲を食べたという伝説がある。

■歴史研究家の見解

全国の作品を一人で製作することは不可能と考えられている。そのため、左甚五郎は実在の名工をモデルにした伝説的存在、または名工の象徴的な名前であるという見方が有力である

★講談実演：講義の後半に、講師による左甚五郎“竹の水仙”の実演に聴き惚れて講義を終えた。来期のカリキュラム内容に更なる期待！！